



あなたの街から

湖(うみ)の駅かいわいを歩く

週刊 まちぶら

# 春の新風 人波呼ぶ



最近、浜大津周辺がにぎやかだ。そう聞いて、まずは浜大津アーカス(大津市浜大津)に足を運んだ。

2階の「湖の駅」浜大津は3月にオープンしたばかり。ふなずしや地酒、ゆば製菓、和菓子など、200種類以上が並び、

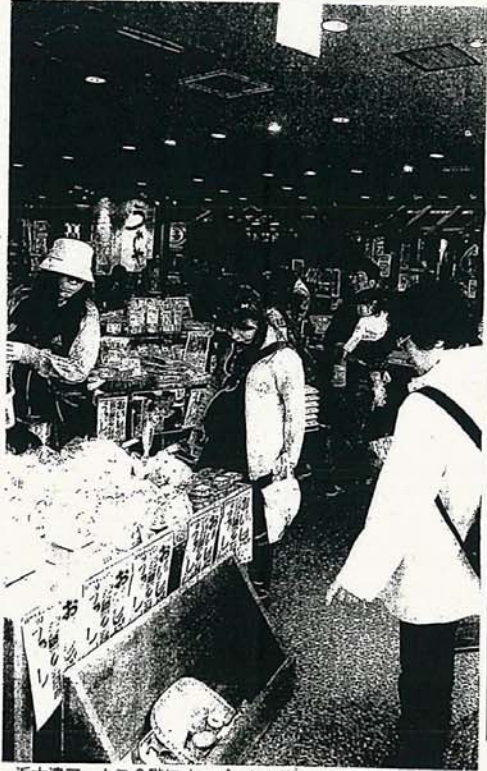
## 特産品200種幅広い客層

以上の滋養特産品が販売される。店内は買い物客でいっぱいだった。隣接するフードコートは湖魚の唐揚げ、シジミや近江牛を使った料理。大きな釜で炊きあげた近江米のおいしさに驚かされた。

湖の駅は、かつて大津港を中心に栄えた周辺に、ぎわいを取り戻そうという中心市街地活性化基本計画の、中心市街地活性化協議会や大津市、地元企業、商店街などの連携で開設された。「湖の駅」の名は、もともと琵琶湖にちなむ。

土日、祝日には屋外で、新鮮な野菜や卵、湖魚の加工品などを販売する「朝市」も開かれる。フリーマーケット(月1回程度)も開かれ、駐車場がいっぱいだ。

お客様の流れは京阪浜大津駅まで続く歩道橋を通っ



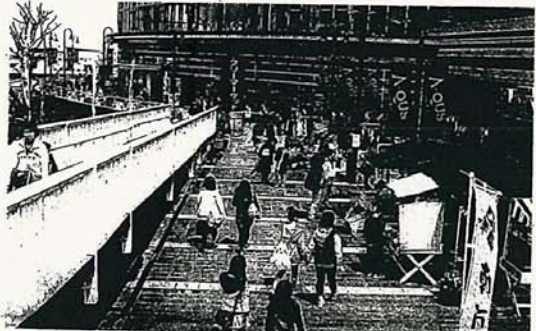
浜大津アーカス2階にオープンした湖の駅には、県内の特産品がずらりと並び

営業委員会の赤倉孝也さん(86)は「周辺だけで地域を活性化できるとは思わない。相乗効果も期待でき、地域の発展につながる。湖の駅オープンを歓迎した」。

近頃は、旧社会教育館をリニューアルした「旧大津公会堂」(同市浜大津1丁目)が2019年オープンした。1984(昭和9)年に建てられた建物は、アース感やビルトイン風の装飾で、とっつきやすい。

オープン前に訪ねると、1階と地下に入るイタリヤや近江牛の店などレストラン4店が開店準備中。オープンした真ん中だった。業者が忙しく出入りして作業に追われ、店主や従業員たちからは「新しい人の集う場所をつくらう」という熱気が伝わってきた。

にぎわいの恩恵がどう広がるか。浜大津周辺が自らを磨いて、今年で7年を迎える先鋒イベントだ。浜大津市運せぬ。



湖の駅が土日、祝日に開く「朝市」(手前)と、日本フリーマーケット協会のフリーマーケットでにぎわう浜大津アーカスのボードウォーク(いずれも大津市浜大津)

### プロダ人脈 起業後押し

30年以上の「専業主婦」から一転、旧大津公会堂にレストラン「大津グリル」をオープンさせた豊田令枝さん(57)。06年から書き続けるブログを通じた人脈が、起業を後押しした。「思ってもなかったけれど、仲間が支えられて走り出した。毎日お店の切盛りについていって、懐かしさを感じる洋食、滋養の食材を使ったおぼろ飯が、一種に楽しめる。「おぼろ飯」を食べに来ようと思わせるお店になれば」と。



### 地元の人でも再発見の場

オープンから1カ月を迎えた「湖の駅」にぎわう店内の客層は、観光客と地元の人が多々という。店長の中田恵理香さんは「地元の人にも楽しんでもらいたい」と再発見できる場所にしたと、毎日走り回り、利用者の声に応え、牧場でのパンなど新たな商品を追加。一角には大津産など地産の各品を展示し、観光情報用のパンフレットも置く。「ここが天津の町への中継地になれば」と、観光の問い合わせも歓迎する。



### 対面販売で無農薬野菜

京阪浜大津駅で週末に開く市場「ほこりマーケット」(1階)の黒田一成(88)は毎週直売店を開く。週の水菜、おひじき、たけのこ、根菜などは採り立て。おぼろ飯の強みは無農薬野菜や化学肥料を一切使わない。販売は朝7時から。おぼろ飯の強みは無農薬野菜や化学肥料を一切使わない。販売は朝7時から。おぼろ飯の強みは無農薬野菜や化学肥料を一切使わない。販売は朝7時から。



### 人集うきっかけの店に

旧大津公会堂に開店したレストラン「カンティネット」GMの代表中井英貴さんは、6年前から本市場で紅茶の専門店を開いてきた。今回は地中海料理と紅茶、ワインを売りたい店を企画。「天津を感じ上げるため、人が集まるコミュニティをつくりたい」と話す。昨秋始まった大津シヤスフェスティバルでは実行委の一人。「公会堂のホールを使えば、様々なイベントが出来る。店をそのきっかけの場に」と願う。



# 旧大津公会堂関連記事

H22年4月19日 京都新聞

改装を終えた旧大津公会堂3階のホール



23日にランドオープンする旧大津公会堂（大津市浜大津1丁目）



大津市の中心市街地への集客を図る拠点施設、旧大津公会堂（市社会教育会館、大津市浜大津1丁目）の改修工事が終わり、23日にランドオープンする。昭和初期の雰囲気そのままに、耐震補強やバリアフリー化を図った。

## レトロ感保ち集客拠点に

### 旧大津公会堂 改修終了

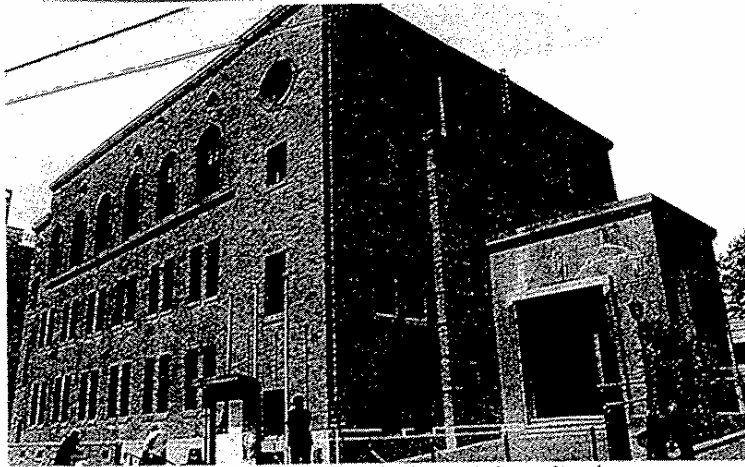
1階と地下1階には飲食店4店が入居、昼夜ともに営業する。2階は多目的室と会議室、3階は100人収容のホールにした。ホールなどは24日から貸し出し可能になる。一部の飲食店はすでに営業している。

記念イベントとして23日午前10時半に記念式典（入館無料）を開き、同日から5月9日まで、

#### 23日オープン

2階多目的室で公会堂の歴史や周辺地域の様子を撮影した写真展を開く。

旧大津公会堂は、鉄筋コンクリート造り、地上3階、地下1階、高さ約18層、延べ約1600平方メートル。1934（昭和9）年に開設。戦後は公民館として利用された。2003年に地元住民らが保存を求め、市が改装した。（箕浦成克）



23日に市民の交流の場としてオープンする旧大津公会堂＝大津市浜大津1丁目

旧大津公会堂

# 改修終えあす開業

## 完成時と「新しい顔」再び誕生

大津市浜大津の旧大津公会堂が改修工事を終え、二十三日に新たな外観を一新し、素朴な信楽焼を

内装もレトロな雰囲気を残して、市民活動もできる「新しい顔」が再び誕生した。公会堂は、大津公民館、大津市社会教育会館と名称や用途を変えながら市民に親しまれてきた。老朽化や耐震強度の不安から廃止が検討されたが、七年前から地元住民による保存運動がスタート。二〇〇八年七月に中心市街地活性化基本計画として内閣に認定され、住民と市が協力して整備計画を進めた。

旧大津公会堂に開店し、多くの客にぎわうレストラン「大津グリル」

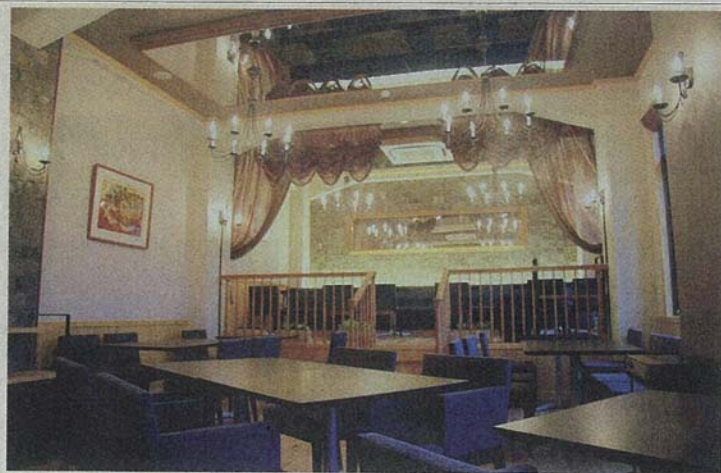


旧大津公会堂に開店し、多くの客にぎわうレストラン「大津グリル」

# レトロとモダン 旧大津公会堂

## クラシックおしゃれな飲食店が入居

改修工事が終了した大津市浜大津の「旧大津公会堂」が23日、グランドオープンした。建設当時の建材を使うなどして昭和初期のレトロな雰囲気を残した一方、内部にはイタリア料理やケ

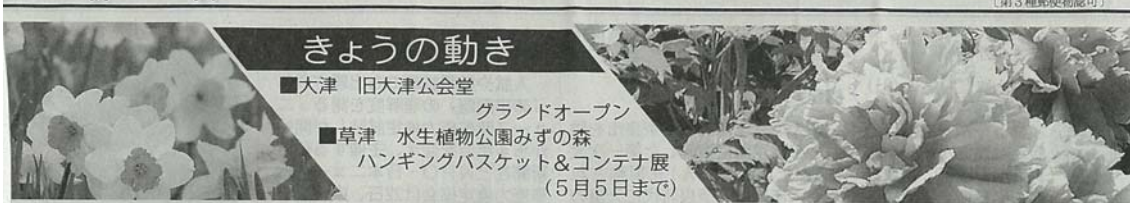


シャンデリアなどでおしゃれなムードを演出している旧大津公会堂内の飲食店（大津市浜大津）

1934年に完成した旧大津公会堂は地上3階、地下1階建てで、延べ床面積は約1600平方メートル。老朽化などで一時、廃館が検討されたが、惜しむ声が多かったことから、市は中心市街地活性化基本計画「プロジェクトの一つとして、約3億6000万円をかけて改修していた。

地下1階と1階には飲食店が入り、深夜にはバーとしても楽しめる。2階には会議室2室などを設けた。3階には、音楽会なども催せる100人収容のホールがある。利用しやすいようエレベーターも新設。屋上には太陽光発電パネルを取りつけ、夜間は発光ダイオード(LED)の明かりで外観をライトアップする。

市は近くの集客施設「湖の駅」や「なぎさのテラス」などとともに、多くの市民や観光客を市中心部に呼び込みたいと考えた。旧公会堂では5月9日まで、市歴史博物館が所蔵する昔の写真53点などを展示する。問い合わせは管理事務所(077-532-8220)。



### きょうの動き

■大津 旧大津公会堂

グランドオープン

■草津 水生植物公園みずの森

ハンギングバスケット&コンテナ展

(5月5日まで)



①レトロな雰囲気を残したままリニューアルオープンする旧大津公会堂②地下1階にオープンした料理店「大津グリル」



## 外装そのまま

# 古くて新しい顔に

**大津** 1934年築の旧大津公会堂(大津市浜大津1)が、約1年間に及ぶ改修や耐震工事を終え、23日にリニューアルオープンする。アールデコ風の装飾を施したレトロな外装はそのままに、洋食店や本格イタリアンなど4軒のレストランが入るほか、音楽ホールなどは格安料金で一般開放。市中心部の新たな「顔」として期待される。

## 旧大津公会堂きょう改装オープン

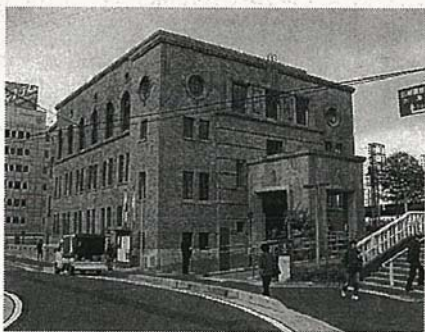
公会堂は鉄筋コンクリート3階地下1階建て。昭和初期、当時は珍しい公民館としてオープンし、大津公民館、市社会教育会館と名称を変えながら市民に親しまれてきた。近年、老朽化や耐震性などの面から廃止が議論され、円をかけて改修工事を始めた。「スクラッチタイル」元住民の外観保存の訴えを受け、昨年4月には、特注の信楽焼で再現。夜間は発光ダイオード(LED)でライトアップする。また、内装はバリアフリー化した。飲食パティーマーできる音楽ホール(100人収容)▽多目的ホール▽会議室1

## 飲食店4軒や音楽ホール

【後藤直義】  
140〜1030円で貸し出す。  
レストランは深夜まで営業し、初年度は6万4000人の来客を見込む。運営する第三セクター「まちづくり大津」の山下充美課長は「子どもから大人までにぎわう場所になれば」と話している。  
23日午前10時半から記念式典。公会堂をテーマにした写真展「大津まちなか・かつての記憶」(入場無料)も来月9日まで開かれる。問い合わせは管理事務所(077・522・8220)。

## 「旧大津公会堂」オープン 飲食誘致、まちづくり拠点に

大津市の浜大津地区に23日、集客交流・まちづくり拠点施設「旧大津公会堂」がオープンした。写真。昭和9年(1934年)に建てられ、名称や用途を変えつつ昨年まで使っていた地上3階、



地下1階の近代洋風建築を、まちづくり会社と市が耐震改修して集客力のある飲食4店を誘致した。

1階と地下1階は地中海料理、創作和洋食、近江牛グリル、イタリア料理店が午前11時から午後11時ごろまで営業。2〜3階は貸会議室やホール、多目的室がある。総事業費は3億9千万円。経済産業省の「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業」補助を受けた。

# 旧大津公会堂オープン ホールや多目的室盛況



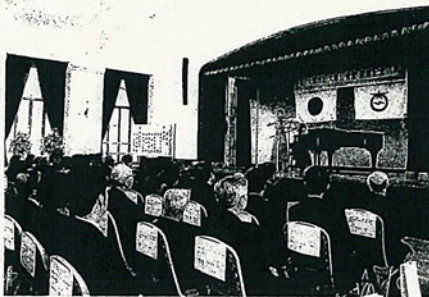
旧大津公会堂のオープンを記念して開かれたミニコンサート（大津市・旧大津公会堂）

大津市社会教育会館として親しまれてきた同市浜大津1丁目の旧大津公会堂が23日、改修を経て正式にオープンした。記念式典やミニコンサートなどが開

進んだが、地元が保存を求めたため、市が中心市街地活性化の拠点として再利用を決めた。レトロなおもむぎを残り、耐震補強などの改修がされた公会堂には、100人収容できるホールや多目的室のほか、4店舗の飲食店なども入り、さつそく来場者でにぎわっていた。（大西幹子）

H 2 2 年 4 月 2 4 日 京都新聞

## 飲食店やホール 交流の場



オープニングではバイオリンとピアノのミニコンサートが開かれた＝大津市浜大津1丁目

外観は地上3階建てのひっかき機様のスクラッチタイルの外壁で、モダンな雰囲気がある。装いを一新した屋内は、1階と地下1階にイタリヤ料理や近江牛のグリルバーなど飲食店4店が入る。2、3階には会議室や多目的室、ホールがあり、コンサートやギャラリーの開催など市民の交流の場として利用する。情報発信室も備え、観光やイベント情報も手に入る。改装前、3階のホールは楽器演奏の練習場などに使われていたが、2階からは空き部屋が目立ち、コンサートやダンスホールとして使われていた往時の華やかさはなかった。地元から保存と有効活用を求める声が上がると、市が昨年約3億5千万円かけて改修工事し、生まれ変わった。

## 旧大津公会堂 新装オープン まちなかに振り向いて

「まちなか」と呼ばれる大津市の浜大津、大津百町など二帯の中心市街地にのびるを取り戻そうと、浜大津にある旧大津公会堂が改装され、23日にリニューアルオープンした。1934（昭和9）年建築の外観はそのままに、おしゃれな飲食店やホールを備え、新名所として復活した。（浅野有美）

テナントを誘致したまちづくり会社「まちづくり大津」は、市などが出資し、大津の中心市街地の活性化をめざす。昨年4月には大津湖畔なぎさ公園に屋外カフェを並べた「なぎさのテラス」をオープンさせた。年間12万5千人が訪れ、好調が続く。これに続いて手がけたのが、旧公会堂の再生だ。なぎさ公園と大津百町の接点にあり、まちづくりの拠点と位置づける。同社の高崎君武社長は「外は郷愁漂い、中は機能的。多くの人に利用してもらい、『なぎさ』から『まちなか』へにぎわいを広げていきたい」と話している。

## 昭和の浜大津 記憶鮮やかに

写真展開催中

旧大津公会堂の2階多目的室では、昭和の浜大津周辺の様子を収めた写真展「大津まちなか かつての記憶」が開かれている。

展示会に写真を提供した地元の「三井寺力耕本家」会長は「遠藤系子さんのゆり」として日本舞踊を踊ったり、子どもを絵画教室に送り迎えしたり。会場に訪れた遠藤さんは「建物を昔の雰囲気のまま残してくれてよかった」と目を細めていた。写真展は5月9日まで。入場無料。



懐かしそうに昔の浜大津の写真を見る来館者  
＝大津市浜大津1丁目

H 2 2 年 4 月 2 4 日 朝日新聞

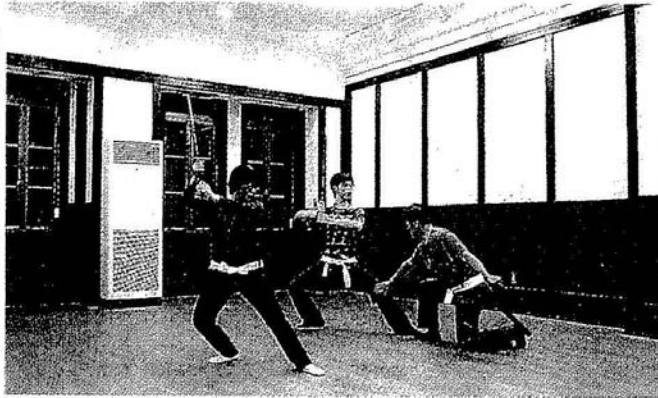
## レトロな雰囲気改修 4月オープン

文化活動に使える貸室やホールを備え、4月にオープンした大津市の「旧大津公会堂」（同市浜大津1丁目）の稼働率が、改修前の市社会教

育会館当時に比べて倍増している。レトロで落ち着いた雰囲気が、絵画や伝統芸能に取り組む人たちの人気を集める。

# 旧大津公会堂 稼働率が倍増 文化活動に人気

レトロな雰囲気の旧大津公会堂の多目的室で練習する剣舞教室のメンバー（大津市浜大津1丁目）



旧大津公会堂は19の公民館、社会教育会館として親しまれた。34年開館、戦後は市

市街地活性化の拠点とするため、市が2009年度の1年間かけて建設当時の雰囲気の再現や耐震化を行った。コンサートやイベントをできるホールや多目的室、会議室、レストランを備える。木の床、しつこいや曲線のある壁面などがレトロな雰囲気を醸している。夕日張りの外観は、夜にはライトアップされる。

指定管理者「まちづくり大津」によると、開館時間（午前9時～午後10時）の貸室稼働率はオープン1カ月で3〜4割、改修前（1〜2割）より倍増。約80件の4千人弱がダンスや音楽、絵画、写真展などに用い、このうち半数が新たに利用した団体という。

水彩画やちぎり絵を楽しむ湖舟会の牧美津子さん（70）は「初めて利用したが、会員が集まりやすく、食事も楽しめる。明るく、使いやすい雰囲気です」と話す。

5月から剣舞教室を始めた正賀流吟舞の鈎正賀さん（59）は「子どもも、剣舞の発表会をした思い出の場所。殺風景でなく、レトロで落ち着いた雰囲気が伝統芸能に向いている。まちの中心部で多くの人が集まりやすいので、伝統的魅力を幅広く発信したい」と期待する。

1時間あたりの基本料金はホール1030円、多目的室340円、会議室140円。利用の増加について、まちづくり大津の山下充美課長は「京阪浜大津駅に近い利便性や安い利用料、飲食店の新設などが相乗効果となったのでは。周辺の施設や商店街とも連携を図りたい」と話す。

（長尾康行）

## レトロモダン! 「旧大津公会堂」に名産グルメ集結!



◎洋食ランチ¥1800。メインは食べ応えのある近江牛のカツレツ。前菜、スープ、パンなどがセット



◎彩食健美ランチ¥1500。おばんざい4種と洋食を提供。近江産のご飯、和風デザートなどがセット

4/23 OPEN

歴史 史ある旧大津公会堂がレストランの出店と共に生まれ変わった! レンガ造りの洋館の中にイタリア料理店の「Ristorante LAGO」や地中海料理の「CANTINETTA GMI」など4店がオープン!

●滋賀・大津 ☎077-522-8220(管理事務所)

### 大津市旧大津公会堂



大津市浜大津1-4-1 ☎9:00~22:00 ※飲食は店舗により異なる ※飲食は店舗により異なる ※飲食は店舗により異なる ※飲食は店舗により異なる 徒歩1分 ☎www.kyu-otsukoukaido.jp/

#### 近江牛グリル モダン・ミール(1F)

地産池消スタイルのメニューがズラリ 近江牛をはじめ、滋賀県で採れた食材を存分に使う。肉料理のなかでも近江牛ステーキはとて柔らかくて絶品。ワイン(グラス500円〜)もおすすぬ。☎077-522-1616 ☎11:30~14:30(L.O.)、17:30~23:30(L.O.) 圖43席(内角)

#### 創作料理 大津グリル(B1F)

滋賀の食材をふんだんに使った料理 ビーフンチャーやオムライスなど、昔懐かしの洋食メニューと共に、滋賀県の食材をたっぷり使ったおばんざいをそろえている。☎077-527-0011 ☎11:30~16:00(L.O.)、17:30~23:00(L.O.) 圖42席(内角)



◎レンガ造りの建物は重厚な雰囲気たっぷり。景観重要建造物に指定される

## 途中下車の小さな旅

# 幻の駅 ～札ノ辻を訪ねて～

往時の賑わいに思いを馳せる…

大正元年から大正14年まで、京都と大津の間に「札ノ辻駅」があった。今はわずかに道標が残されるが、かつての賑わいの礎となった駅だ。そんな「幻の

京津線浜大津駅を出て、国道161号の併用路面の坂を上栄町駅に向かって走る途中、京町一丁目交差点の辺りに、「札ノ辻駅」があった。

### 【札ノ辻駅の成り立ち】

明治13年に国が敷設した京都―大津間の路線は京都駅が街の中心部から離れていたこともあり、明治43年に民営の京津電気軌道株式会社が設立、大正元年（1912年）8月15日には旧東海道に沿って京都三条大橋駅から終点の札ノ辻駅までの路線が開通した。京阪電鉄刊行の「鉄路五十年」によると、開通日はちょうど盂蘭盆（うらぼん）にあたり、多くの商家や農家の人たちは仕事を休んで琵琶湖や大津市内の見物、京都の大文字見物に出かけたため、電車は終日満員の状態であったという。京津線用に製造された新車両は窓飾りを付けたモダンな木造電気客車で、定員は60名。当時、京都三条大橋―札ノ辻間は14駅、所要時間は約30分で往復運賃は28銭（一区間2銭）。電車一本で京都の繁華街まで直結したことは便利さの面からも、画期的だったが、当時の小学校教員の初任給が10～13円ということからすると、決して安いものではなかったようだ（※1円は100銭）。

### 【札ノ辻駅の様子】

札ノ辻で明治29年創業和菓子の「鶴里堂」3代目の栢口（かやくち）

文雄さん（78）を訪ねると、「幼少（昭和10年）の頃は札ノ辻駅が遊び場で、牛も通っていた。駅の乗り場は道路から一段高くなっていて、今は白洋舎となっている所が待合所。中には売店があり、許こんぶやキャラメルが並んでいた」と話してくれた。また、父親の代から75年あまり続くヘアサロン「ハマカワ」を営む深田アツ子さんからは、昭和20年代は映画館もあり、町で一歩賑やかな繁華街だったこと、琵琶湖がよく見えたことなど、今は違う街の様子を聞くことができた。お二人の話から当時最新の乗り物だった電車が、大津の古い家並みをくぐり抜けていく風景を彷彿とさせる。

### 【札ノ辻駅が廃止されるまで】

札ノ辻駅前には明治31年に市制となった大津市役所があったが、その庁舎の前身は日新学校の校舎で、和洋折衷の洒落た外観が市の中心を象徴していた。庁舎は大正5年に浜大津寄りに移転するが、跡地には三階建ての展望台を備えたカフェが登場するなど、流行の最先端が集まる場所として賑わった。「大津市史」によると札ノ辻駅止まりの軌道を浜大津まで延長する計画は当初からあったが、この間は「突き抜け」と呼ばれる細い道だったため、用地買収に時間がかかり、大正14年5月5日ようやく延長開業、琵琶湖遊覧につながる環境が整っていた。その後、札ノ辻駅は浜大津と上栄町両駅と至近距離にあることから、戦時



中の昭和20年  
日で廃止となっ  
幻の駅「札ノ  
いや喧嘩が聞こ

### ＜札ノ辻駅＞

「札ノ辻」とは（てがき）などを意味する。この駅があったのは、坂点であり、宿場、参勤、木津勝など、町の中心地を示している。



## 街あるき情報

### 『旧大津公会堂』4月下旬誕生!

京阪浜大津駅の石山寄り、線路沿いのレトロな建物、大津市社会教育会館が「旧大津公会堂」という名前でリニューアルオープン!



スクラッチタイル  
縞かくらついたような表面のスクラッチタイルの採用と水平線を強調した意匠が特徴的

2010年4月下旬、大津市社会教育会館が地域のコミュニティースポットとして生まれ変わります。旧帝国ホテル設計で有名なフランク・ロイド・ライトの影響を受けた「ライト式」建築の外観や雰囲気はそのままで、地下と1階はレストラン、2階は会議室や多目的ホール、3階は音響設備を整えたホールと、市民の交流の場として幅広く利用できます。もちろんバリアフリー対策も施され、耐震補強もバッチリです!

オープン予定店舗は、1階「モダン・ミール（近江牛、肉料理専門）」、



出店テナントイメージ

「Ristorante LAGO: レストランテ・ラーゴ（本格イタリアン）」、地下1階「CANTINETTA GMT: カンティネッタ ジーエムティー（地中海料理とワイン）」、「大津グリル（和食、日本酒）」の4店。いずれも食材にこだわった店ばかり!

ところで、この建物の歴史をご存じでしょうか?昭和9年（1934年）に大津商工会議所と大津市立図書館を併設した「大津公会堂」として建設され、戦後は「大津公民館」、昭和60年からは現在の大津市社会教育会館として、名称や用途をさまざまに変えながら、永年にわたり市民の交流の場として親しまれてきました。また近代化遺産としても歴史的に価値が高いと評価され、保存を願う声も多くありました。中心市街地の重要な位置にあるこの建物を、地域の人々や来訪者が交流できる拠点として活用しようと生まれ変わった「旧大津公会堂」、是非訪れてみてください。

■ 所在地：大津市浜大津一丁目4-1  
■ 問合せ先：(株)まちづくり大津 TEL077-523-5010

モダン・ミール	地産の食材を大切に、滋賀の特産品である近江牛をベースとした肉料理の専門店
Ristorante LAGO (レストランテ ラーゴ)	地産の食材を主に、肉類は炭火、野菜類は素材の味を生かしたメニューの本格イタリアン
CANTINETTA GMT (カンティネッタ ジーエムティー)	地中海料理とワイン、紅茶。他に焼き菓子などのドルチェを提供。浜の隠れ家
大津グリル	素材を生かした創作和洋食の店。煮込み料理やおぼんざい、地元の日本酒などを提供

昔あった駅

ふたのつじ  
札ノ辻

上栄町

かみせきでら  
上関寺

大谷

追分

めぐりめぐるとつじはら  
緑ヶ丘運動場前

四宮

京阪山科

御陵